

飼料用米の保管経費を 5 割削減可能な玄米による野外での通年保管技術

利用対象：耕種農家、畜産農家、飼料会社等

目的

飼料用米の保管経費の削減を目的として、倉庫を必要としない野外での玄米による通年保管条件とその効果を明らかにしました。

<野外で通年保管するための条件>

- ☑ 水分 13.5%未満に乾燥した玄米を容量 1000L 程度のポリエチレン製 (0.15mm 厚) の内袋とポリプロピレン製の外袋を組合せ、コンクリート舗装上に置いた樹脂パレット上で保管します。
- ☑ 保管容器の梱包は雨水の浸入を防ぐため、内袋を上部で束ね、ポリプロピレン製ロープで根元を強く結束し、その上部を下方に折り曲げ、再度同一のロープで強固に結束します (図 1)。
- ☑ 風雨や紫外線により保管容器が劣化することから、フォークリフトでの取り扱い時の安全性も考慮し、被覆シート等により上面および側面を覆う必要があります。

<本技術の効果>

- ☑ 貯穀害虫、糸状菌 (カビ) を発生させることなく、水分、乾物重、飼料成分値、可消化養分総量 (TDN) を保管開始時からほとんど変動させることなく野外で通年保管できます (図 2)。
- ☑ 玄米での野外保管では粳米での常温倉庫内保管に比べ、乾物玄米 1t あたりの保管経費を減容化と保管場所単価の低減により、5 割以上削減できます (1200L 保管容器での 1 段積条件下)。



図 1. 飼料用米の充填から内袋結束作業

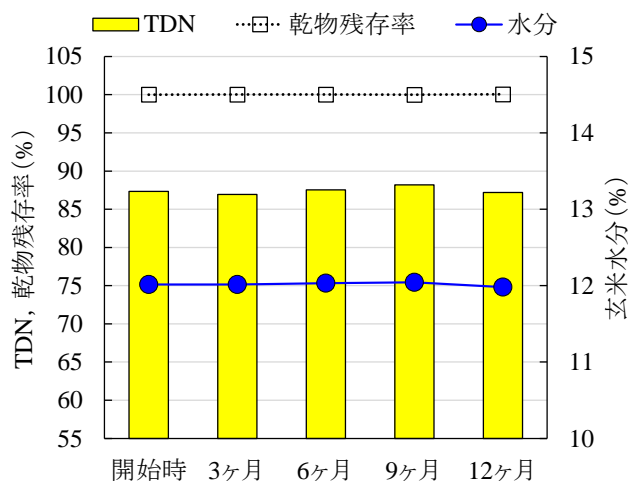


図 2. TDN, 水分, 乾物残存率の推移

<活用の留意点>

- ☑ 野外保管する玄米の水分は 13.5%未満に乾燥させる必要があります。
- ☑ 鳥獣害および鼠害が多発生する環境下において野外保管する場合には、別途対策が必要になる場合があります。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 川原田直也 電話 0598-42-6359 中央農業改良普及センター 山本泰也 電話 0598-42-6705
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm